

## 特用林産物振興事業

### 取り組みに至る背景・事業の目的

- 過疎化、高齢化、さらには外材輸入等による木材価格の低迷により、森林所有者の山離れが深刻化しているが、「食」の観点からみれば、森林は山菜・きのこ類等の豊富な資源に恵まれた「宝の山」ともいえる。そこで、山の恵みに焦点をあて、栄村の「山菜ブランド化」を進める。
- 山菜のマーケティングをする中で、都市を中心とする消費者の中には、山菜等の調理方法を知らない世代が増加していることが明らかになったことから、山菜の特徴や調理方法を広く知ってもらうため「栄村食文化レシピ編集委員会」を立ち上げ、郷土料理の紹介と併せてレシピ集を作成する。

### 事業内容

- 「雪萌え山菜」のロゴを作成  
栄村の山菜に添付して販売(シール 36,000 枚)。また、首都圏や地元の山菜まつり等では、ポスター掲示(2種類・各 100 枚)やチラシ(雪萌山菜の食べ方 あれこれ)を配布してPR。
- 山菜・きのこ園の整備(コシアブラ 500 本, ワラビ 1,000 株, ギョウジャニンニク 5,000 株, シイタケ 5,000 駒, なめこ 2 万駒。苗木・株の採取植え付けは住民参加)。
- 栄村の農林水産物を使った食文化レシピ集(131 頁、カラー 1,000 部) \*他に有料頒布用に 2,000 部
- PR イベント(麻布、有楽町、横浜赤レンガ倉庫等 11 回開催し、山菜等の販売とPRを実施)



### 事業効果

- 栄村山菜の販売額は、年間 6,000 万円を越えており、栄村の山菜を産業として確立させる上で「雪萌え山菜」によるブランド化は、大きな効果が期待される。
- また、9 名の I ターン者も編集委員として参加するなど、総勢 25 名の村民により作成した「食文化レシピ集」は、厳しい自然と共生してきた先人達の知恵と技の集大成となり、有償販売分が数ヶ月で完売し増刷する等、村民が村の伝統食・郷土食に誇りと自信を持つことの大切さを考える素晴らしい事業となった。
- 「栄村の地味な生活にもよさがあることを実感できた」「村の自然や生活をもっと深く考えれば、村が元気になるヒントがきっと見つかる」等、本事業を契機に生まれた自信は大きい。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- ・ 本事業を通じ、村に伝わる伝統的な郷土食を活用した地域づくりについての機運が高まり、郷土食「あんぼ」を「おやき」のようなメジャーな商品として確立し、信越県境ならではの食・土産とするため、平成 20 年 4 月、津南町の事業者も巻き込んで「信越あんぼ保存会」を設立するなど、新たな地域づくりが広がりつつある。
- ・ 山菜・きのこ園が稼動する数年後までの管理、さらにはどのように活用するかが重要。なお、山菜ブランドの商標登録は実績不足により見送らざるをえなかったが、「雪萌え山菜」のロゴによる栄村の山菜PRにより、「山菜」「郷土食」が新たな産業として期待される。

#### 【選定のポイント】

「雪萌え山菜」によるブランド化による山菜産業の振興、村の郷土食を活用した地域づくり

団体名	栄村	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	産業建設課産業振興係	事業費	3,157,446円
	TEL:0269-87-3111	支援金額	2,425,000円